国立国会図書館　　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

第三回

去る程よ五郷の流の川ある。鯉魚が情よ[illegible]と
こと食客のみとりしく昔の志をひるがへし[illegible]
揃へ[illegible]松坂縞の布子よ[illegible]
がけゆく。裳所の[illegible]
くづ〳〵てのさきよ人も五郷が運上[illegible]

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

便ふく思くどこまでとよう死後ろうらやとまで仕立給
おとさりける 世人なり。おつも沿岸者の一つぶ者りの十人
むりつまく昼時ろうらこくへ吉ケこみ犯のハ九のつけうまでのぐう
ろうりの大きさ死よ ぶりさまぐゆらはけんさう引ぬ
そのようく少離よのくるげいやくさぐゆくく
ひろくめるおくくまでそのおさもきろまうまで新ぎんや妻
ハイくとむりのうくいろよ大世のげめやこまをうぐさこのの
まるうろうのなものおさ ものとゆくふるつまめ
神赤のうくくそのうこ子狗をうるようまごくおる
さんる 少ひる 「ハイひお血ハどうこくあげまおうれ
「ヨヤ

子ハどこへでも。おめくのあげよふと方へあげ
うく。人よ変合せるうおうおうくべねくるる 少ひる 「ハイト歩
を月日ま 新奇 「イヤとまハ 「ヨヤ おさくよの
そ猫 「ヨヤ少ひるさんが急ひざしでどぎりまするサ。お
うけるさのる 新奇 「イヤく何がおまで親仁ごと急ろ
て。そんるよんくびつてもまぐ新造ハきらいごる更
のようふる年頃の血ぐくるけうおうのやごく 老猫 「ヨヤ
まひろど 年頃のんるさのまく年頃もよくぐまぐこまぐ

とせ二つよあらうりまゝせんのめを 紋「そのうちよ大嫁が
のくらまでうてゐる 猫「そりやおまへさんハ紋よ口よあくを
のうくものぐみそるよ 紋「ヲヽ口よあくをめつくりの。せん
たく屋の門口でやつあるめへ 猫「そまハてゐどおでも
いくがお盆ハどおうきろのでどざりますとやつ
ぱりおくく「そんるら山ひるさんぞれ
雑ぞよおれを教んでそまろうあげるがのくるの。ア
世話のゆけこ子ぐぞ 三馬「いのくおうさんよまろと

どおもおくこぐねへ。それよ世ぐが世るらおくろさんるんぞ
ひ伝るこぐがあつてもを時分ぐ 紋「ヲヽ火おまへく
さんまぞでぐそんるゆくまゝ口をおきてうまそるよ。ずう
ねへく 小ひる「ハイモシ梅さんぐどおぞちろとおあのをる
をろうく下さのまゝ 梅「イヤ龍み子がるうくゆりく
そぶくまてこ盆ハきぐねへゆりおさへぐく 小ひる「ハイ
トスこころ「お栄さんぐどおぞおまへく 叶おまのおあのを
おそておくまるる 栄「そんるまぐうのこおまゝハのや。おまへ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

おあづりや「そふござりく　おまへさんもおこゝろさんも
おものをあ〳〵でるのよ「ものをいやなりきとゝ
まをこゝのくさんやく〳〵そろよ少ひるの顔をまへさまと
まへさまとこゞのんで我ゝあへさまと
のんざるく〳〵。そこゝれゞ
から人さまのをかまずよのめばいく餘りゞござ
モウ一ツもの〳〵。そうれもくろきりまく〳〵ぐ
ら迄ますん。今のをきれまく〳〵このでこゝろまの赤
よろりまく〳〵よ「繁「おめく酒ハ嫌ひろ「ハイ不調

法ぐござります「東「酒が嫌くぐ又餐者よろる
とゝゝゝ「根ざ「そのそづくぐござりまさろるお川
とゝらのふ田舎のお育ざりのをを「ふくそ迄下やう八王
子の近所ざるこ大郎と名をろく迄ゞのひ。ろくゞ
うらおこゞよろろう「そ迄しやうどのろまんま樊
のよふござね「東「そうちろとろざ
弾ねくらあんまり座敷がめくるよろざ
いこゝまをろうト「康綱をうあげ「梅「ヲットまろくろく

ぬるまや「そりや唄ハ生の卒ごぜ
せんの「ヲヤ京都あさ子「そまつく子供が寮少夜をもるのゞ
もるのゞ「ヲヤ子供が寮少夜をもるのゞ
み唄ふぞんじません「ヲヤ此多もひろぶりのそゞ
「ヲヤ子供が寮少夜をもるのゞ
「ヲヤ子供が寮少夜をもるのゞ
「ヲヤ子供が寮少夜をもるの

七「ヱヽどやア 唄ふもの多く 何ぞ浪花ものゝ
葛西の 念仏ざらう 東「イヤそれでは 事が分かとつてよう
ろう。その お助けおどりを見たく 少なり「いゝるうぐを
のぞく。どふこれも助けおどりを 松ざ「ヘンお
助けおどりとやらも 珍しきこの間 あの人の 仮初
さんと毎さんと二人連ぐ 踊ツてまことどやア 極へら。
お前も家なのる時ぶん あやア。毎さんと二所よ 生て
ことのうさどやア 往へう 東「どふでも見ることよふぐと

思つてこサりくたよふまねくおどろりく 松「それが
極のことさ 是でくおらうト 傾の甘日まもるうねるよやぐる小雑
まりうまるうまるうまる

うちくまで公でも来ること見へる　三両「ハテナト
あの流星と入の引来あるを大尽もう日のや後の
うちくまで公こと不便や土瓶や糸瓶等や。そこて、瀬川
はどふしこの　歌「瀬川ハ住う抱山とあらしの大会ねよ
実出さまこととのみごと。そこあも居ねくそうよ何
ニァノ五つをへ呼ふやうねくうトいやはお客さまのまへ
つまもおちまでるもありと月くそのいとそんまもらきとまくよさもおもあ
どころまよもこちらひとく居る。五つさんとのふくを一すんで

くそみせへ今の名ハ何といふの。アノ青の縞の衣もさ
白い小倉う何うの羽をおりく居る男さ　下女「分くト
歌舞伎の五つさまのうちおくもよぶ　五つ「ハイ何でも有ませぬ
おつやさんのよふな五つさまハおりく
皇日本すうト　歌「モシ一別改まぐれ。サア
とうもくもこの通りの世へトいふ通ぐ　五つ「コレハ
どうこともよのおおるさうもくこと　歌「ヲヤ
でござせへをお仏城買ハ　五つ「ヘイトのる
そうよふぐやうまつく癪ぐとうぐらくを給さ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

ようまるくゆの真八稲へ日を
時ならハモと全盛をとろくつけ
いの男よりもてハ面目次第もござりまセぬ
面目稲へ真八稲へ。みんなまくそんなのさアの古い
おまあることわりつくまるようくそまる川行の流
れの末八借金の渕サ五ツくさへまる形よまる
さえ文字もさえとの人ガアノ五ツさえと云て大通の

氏神とのうまて人ざ。
ねくどやア。江戸鯨舎のそだち
あらまもまやう又と
呉宝八ひぐるりくく
梅コレサ逃る真八ねくまる。
あるとぐこのごぎり生すが。三年ぐうち酒をばくち
まくる一三年ぐうち極
六年まくそ昼年のそんなもんとござろう

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

その夏十二年目を忌く昼夜のもぶようろう 梅一仰
「ふすまうらねくくくくくト 大勢ひよ奴の五つ八成人くまで飛ぶ世ら
きぐさまま」ロもしきそうかぎりうりひまだ 是大勢の若者のの人まくまでさるぐよ
利をつづてまくおしく どろうとをもうしく
湘をふくみくもの是ぬまもあまもし昔の五
ど今かろう今宵の男の上まもバ仰のもう
仰の流や 我「コレサ五ろさん仰ぐ
いろう
サアく酒を呑ませ 参猫さん
五「ハイ有ろうら お盃だろう
のとろこる面白くを祝く。初會の
客ぶしやある

ぬく。一ツ盃のみる世 五「ハイ有つてござりまぶ
金比羅 参詣さるへくもちまくこのでござり
うさこれまく 我「ソウ何もあやまるあやや及ばねく。
サアく着をとひねくく。時さ
ぶやくくト もつそのまど 五「ハイどふうりまくろさろ
たり為くません 我「るふおる人がおらねく変である
のろ 五「イくエモウ一向ろ前ろ信不通くござ
ますす 我「そエーでやろ ろろくまろう

五「ハイ 然「女子は惣じて家業を
もつく慕ふもの 及ず女 今の男ぶり芸者の
ものゝ。 三両 然「おきやがれ
そのハ古くさい 五「イヽエこれまでも及び
然「金がうくさいとさ 五「イヽエ
ト五さうハきらひ 然「コウあんまり
不礼ぐづト物をいふのよ
ぬと 然「こゝを一分 五「イヽエこれまでも及び
ねく昔ハむかし 今ハ今ぐ料理やのそさをそ

わるうら昔のよふにて狼狽を
ようせ通しこ申りようふがとく往
のうそれるらもツ分ゆるべのト
いひ
のひと五つまで分の年く勝ま申り。
うこをうこふやらこ味せんのうらを着
ゆくくくやらんがうらうせ死の。大さう
第四回
げん実や鶯鳳も窮まる時ハ蛙蝦のるよ若
とうや五郷ハ大将の半可通よ勿優せら

かぎりなくとりく〳〵給仕方ども。
狩人の方へ来り。又々傳吉へあつけ
よおよびけるあと油を仕度して所〳〵
ぐやと廊下をつゝて小室へいそり込
るよ。小ひろい最前あまり酒をあびら〳〵呑
ゐなのち悪るりけるにぶ風よふら〳〵酔をさま
さんと川へ出そろ〳〵別荘へ帰りユサ〳〵ていそろ〳〵が。
落るともなく前後も去らず寝へ
入けるよ五ツ半

とりそうり風をひろばおし〳〵からんと静よ
ゐるとおもひのほか五ツ半ごろく乃深うのく風でも引
るまもなくおき〳〵爰へ来りて有ゝと難ふござりまするあんまり酔
くらくりませぬうらどのもうちとこゝろをつけて毒
下さりませまぐみるまおもひきりまし〳〵ねアイまぐ
くぐおこそうくお飯んうまきる行燈へうのうらこの
ちくらゐなもろてもよのぐひろと風でも引とるよ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86
ガラス使用

からサ。湯でもよひまをつく苦しく人。湯でも上ようろ
ひま　ハイそれまらごめごト　茂のうちに五ツハうけてまり白湯の外
まんまありあはせくる　五「サア　モシ　湯をめつくまのりまし
そこでもお茶ぶるまくハ萬金丹ぶごぎりまずぶあげま
志ようト　流行のよひま　ハイそまいハ
ト　五ツのうちをあぶり白湯をいり茶碗
又まんまぶるまくのあるまで　五「モシ
ぶすまきようおひまきまねば
五「お程そふいひまきまべ

お程　ハイ
ろまくまんまぶ　五「ハイ
ト　白湯をいり茶碗
又まんまぶるまくのあるまで　五「モシ
ぶすまきようおひまきまねば
五「お程そふいひまきまべ
お程　

のかのとやまりて滅る事日をふ
たゞそのあけくる女郎ようを見
の夏ぐ芸者ようら五ツく去をふ
まりてあのと云間ようら知ま
女中衆の噂で吹く新子の芸者衆がみんなよ
るぶら五ツとのつこ六おくのと夏久へ何ごろ
よのまた六五ツまで滅よとまりきりまくこれよ
ヤノ新子衆さんとゆらのふも方が酒をむろまよ

さろくろくろくく五ツ
上がりる。私ゞ昔世よあくく
ひるまでこを狠よりくく。さ
座ぎよんで何のうのと皮肉な夏をのつこ。あげくの
そそよ金をつ分紙よひねつくくわりそてんまて
よりくあんまりる夏よ人をまる世ぐと獲が
たろくろら逸くろら。ゆりよあがをくねへろうんぞと
ゆりくづうくをゆひざくろら既のつ夏人をを

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

あつうふうと思つてござる。愛のうちハ私の親方のうちぐべ
世活まうつくのる男でそんなものを
おつと辛抱してのござれハ今ぞある
と馬鹿をみも利口ハ見く落魂と發明な人も
何ぐろたろぐく苦るものご。悔しの物よト又ござさし
「瀬ござ夜さえハさぞ成長あるまり
ね 五「ヲイ成長ありまつこうよ。えゝくあのまん
「あつちのお家ハぐふるさまり
五「イヤモウ

新世バ長のことき先達てもおくまるゝ。
私が本家とのふりのも猥ぐハうる
ござけぐ有そふぐろ。そまぐく鬼角私が邪ナでうら
ねくものぐうら焼山の別荘まで
でもおらまる所を爰の家の真ごも利右ごのく
のふ人ハ添物ふ人ぐ氣の毒ふところくのろて引
取ぐく世活をしてまるまようり
入うくく男を為しくく外ぐもうまうとず働きござ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

さうさ　そ那のようなあんまりあんまりな奴等ぢゃ。
ろと　きのどく　猿ぢゃくやしくくやしくくやしくくやしく海へ
泪ぐとでまるぐ。こまる親の罵ぐぐみとおりくバ
我身を省ようり外ハねへのサ　ひる「そふぐござりまーやう　五「イヤ
かへ。そまへさぞ口ぢごぐござりまーやう　五「イヤ
ひぢぐひの何のとのうちやうぢや。何ぞ親類の家でも
おくへて参食くみまバ内外の着ものを機嫌を
とらふくふらまど。食客をどうらひのくるのハト

ちやりごちやるのめぐてりのうちよ。
だそこよかろる人ぢまま母ぢ母バ生産のあと
ふぢぎのんあとうりろー。おくとちろ
のそぐまぢよ母ぢことうぐくとまあらずも
ま変ぐ休んでのみせへ。
ちろ〜母ぢくあげやちかうトいろ
トろ〜なまま　五「どふーくさ
五きろうバまり
痛ぐさ〜とんでゃイ多〜〜〜
のぢこ今の万金丹を呑ろ母ぢ湯ぐすのぢて来く
あげようふ　ひる「イエくモウ　五「そそうら　湯へハいろまぜん

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用

おしてあげようよう　ひな「ハイあんまり導りでござります　五「仰のおゐく木辺義ふ縁ぐく　世のまゐが世話よりゝ又こゝで当ひまうけぎ舎ふくいろ〳〵氣あつこひをやらでおふ。さうきうらおゐくもいろ〳〵氣あつこひをおこのでそ是ぐ疫がおこうこのでおふ。汁医さんでもよひやあつくあげよう。併とそりらぐどもふ不自由ごうら近所あまぐびりひがひな「イヱ私ハお幷ぐさらハぐごござります　五「ハテそまぐとまろこのの

だト　傍半のうくら　ひな「ハイのおまゝ〳〵　五「ハテとまろこ下でござります。アイタゝゝゝト　むよまゐ。ものごの。おまろうそおもうくふ。皆よそのお訳をのうそ駕舁ぶでも幸ふうく返りうさるかひ　ひな「ハイイヱどふもそんな事をいこてハ内のまへがほろふどござつきます。どふぞ導のうちうの間おくしるもろうくおいでなまろう併しおいよお氣の毒でござ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86
ガラス使用

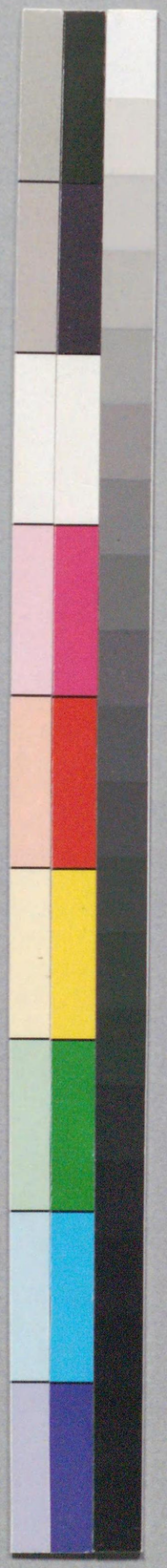
うとします　五「ヲヤ〳〵ハイのこと
ごぎりやせぬト　しりつく　ふしぎ　後ろ
ろんくそてさまざまのばち　ばちをけ
しくるさまあるいは　ばちを　ばちに　ばちる　ばちに　ばちる　ばちに　ばちる
ばちばちと　ばちばちと　ばちばちと　ばちばちと　ばちばちと　ばちばちと

208
3
86
特別

勤る甘へ。おまへハモウとふ〳〵て居るうもく女房ぶでハ
猶〳〵うら又昔よを昨つこうらバ。その時どのでもる
らうう〳〵ハ多よおまへのよおるの甘へ「ア〳〵
もう〳〵もまへハ多よおまへのきう〳〵私ハおほうり。めつ
そよおのこのハ出来るの子 五「そまます又どうもふるま
トいのうちざ敷の方 鮑「サア〳〵もうく〳〵おひらきとおやう
ゆく誉のあとヒて 三両「とまうら迚よおまへ系ぐ。ライ甘る龍を仕人
〳〵 数ぐ。そふいつくゆうくくイ有へ 五「ア モウお返ぐ

そのぐ早くこ誉へひきる甘へ一雅も前ぐつきこハおま
きまいうね 五十七サみんるの外ろ系のつくころ
ちやうねへ」そんうらかうまずへトうぐりおげさぐをのうる
友うまバ。ルひるジスーくぎきこをおけうゆもきが あとのぐくよひさる
つぐるおるおーゆそさろくうらら多よりかぐるおのう 鮑「サアくおろへ
ざ方ハ爰うらかくれる甘へおうまへ一つまて行も甘誉るせん
芙ぐ「そまハ有ぐるふぐぎりまずさまふるうバ儘
げそふ「きうらバ〳〵トおやうらきそのそぐ甘けるまげ
世虎甘巻後編巻之二終
者ハよろこびうぐやく〳〵うぬ

国立国会図書館　当世虎の巻後編 3巻 208-86
ガラス使用



国立国会図書館　　当世虎の巻後編 3巻 208-86

ガラス使用